令和５年度事業報告

I.　会議

1.　理事会

令和　５　年　５　月　２　６　日
令和　５　年　６　月　１　６　日
令和　５　年　９　月　２　９　日
令和　６　年　３　月　１　５　日

2.　評議員会

令和　５　年　６　月　１　１　日
令和　６　年　３　月　２　４　日

3.　監査

令和　５　年　５　月　２　６　日　法人監査
令和　６　年　３　月　２　７　日　長崎市集団指導

II.　事業所別事業計画・事業報告

1.　デイサービスセンターアスカ【通所介護・介護予防通所介護】

（1）事業計画

①　ご利用者の介護状態に応じて個別に適切なサービスを実施します。

②　感染症や災害への対応力を強化します。

③　地域や家族との連携を強化します。

④　ICT 等を活用した科学的介護の実践に取り組みます。

⑤　稼働率を高め、収入の確保と経費の削減に努めます。

A）　新規利用者の獲得、転倒等の事故による入院を防ぎ平均稼働率 80%、売り上げ目標 9,000 万円を目指します。

（2）事業報告

①　どのような状態のお客様にも適切な対応ができるように事前の情報収集をしっかりと行ったことで、お一人もお断りすることなく受け入れることができました。

②　令和 5 年度もお客様やスタッフへの新型コロナ感染事例はありましたが、早期発見と対応を確実に行うことができたことで感染が広がることなく通常運営ができました。台風、大雪などの対策も事前にニュース等で情報収集を行うことでトラブルなく営業できました。

③　ご家族やケアマネージャーに対してこまめに連絡を取り合いラポールの確立に努めました。小榊小学生との交流や介護予防教室、サロンなどを通して地域住民との交流も増やすことができました。

④　DX を活用した業務の効率化を検討しましたが、費用の都合もあり十分な活用ができませんでした。令和 6 年度は働きやすい職場作りのためにも業務の効率化を推進していきます。

⑤　上半期はまだまだ新型コロナの影響がのこっていましたが下半期は回復でき延べ利用者は 1 万 122 人、売り上げは過去最高額 9480 万円、稼働率 76.5%を達成できました。

（3）利用定員・年間利用者数

①　利用定員対比

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	13,240	10,122	-3118	76.5
1 日平均	40（35）	28.8	-11.2	72.0

② 前年対比

A）　登録者数

	㋐ R4 年度登録者数	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	1,074	1,051	-23	97.8
1 月平均	89.5	87.6	-1.9	97.8

B） 利用者数

	㋐ R4 年度利用者数	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	9,977	10,122	145	101.4
1 日平均	28.4	28.8	0.4	101.4

（4）職員配置（3 月末日現在）

	常　勤		非常勤		合　計
	専任	兼務	専任	兼務	
管　理　者		1※①			1
生活相談員		4※②			4
介護職員	3	4	3		10
看護職員		1		3※③	4
作業療法士		1			1
栄　養　士			1		1
調　理　員	2		3		7
介護補助	2		5		7
延べ人員	6	12	15	3	36
実　人　員	14		14		28

（5）令和 5 年度自己点検評価

上半期は依然として新型コロナにより運営に支障が出ていましたが 5 月に 5 類に移行し社会的にも日常を取り戻してきたことにつれ新規の問い合わせが増えていき、この 3 年の間に減少していった登録者数が次第に回復し延べ利用者数 1 万人を再び達成することができました。それに加えて加算等の見直しを行いお一人当たりの単価を上げることができたことで単月での売り上げでも年間での売り上げにおいても過去２０年間で最高の売り上げ額を達成することができました。しかし施設の老朽化や設備の劣化により補修や交換が必要な箇所が増えているため、営業へ支障をきたすことなくお客様が継続的に安全にデイサービスをご利用できるための処置を引き続き行っていく必要があります。

2.　グループホームひばり【認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護】

（1）事業計画

①　認知症ケアに関する研修の機会を増やし、職員一人一人が認知症の方に対する理解を深めて質の高い認知症ケアが提供できるように努めます。

②　事業所内で感染症に関する委員会を設置し感染症の予防や発生時の対応ができるように努めます。

③　毎月消防に関する訓練を行い、マニュアルの見直しや火災・自然災害等を想定した避難訓練などを実施し、災害発生時に迅速に対応できるよう備えます。

④　介護ロボット・ICT を活用することによってサービスの質を維持しつつ、職員の介護負担の軽減と離職防止に努めます。

⑤　ご入居者の様子が掲載された通信を定期的に発行し、コロナ禍でもお客様や事業所の様子をご家族へ伝えて安心していただけるよう努めます。

⑥　体調管理を徹底し長期の入院を防ぐことで平均稼働率 98%、
売り上げ 4,400 万円を目指します。

（2）事業報告

①　令和 5 年度は事業所内研修として、5 月に認知症ケアに関する研修を行うことができました。その他、会議内でそれぞれのお客様へのケアについて職員同士で話し合う時間を作りました。

②　新型コロナウイルス感染症に関する研修等は参加できましたが、事業所内に感染症に関する委員会を事業所に設置できませんでした。

③　毎月消防に関する訓練を実施し、火災・自然災害を想定した避難訓練やマニュアル見直しを行いました。職員の退職等あり訓練への参加人数が少ない月がありました。

④　移動用リフト（カリーナ）や、マットレスの下に敷いて人の体動を捉えることで睡眠状態に加え、起き上がりや離床・在床を把握できる機器（眠り SCAN）を活用し、腰痛予防と夜間の介護負担軽減につながりました。

⑤　年 4 回の発行を計画していましたが、2 回の発行となってしまいました。内容についても季節感がないなど、改善すべき点が見つかり今後見直しを行う予定です。

⑥　令和 5 年度の平均稼働率は 98.8%で、売り上げ目標である 4,400 万円を達成できました。

⑦　外部評価（福祉総合評価機構）
令和６年２月２１日

⑧　家族会の開催
新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、家族会の開催は中止しました。

(3) 利用定員・年間利用者数

① 利用定員対比

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	3,294	3,256	-38	98.8
月平均	274	271	-3	98.9

② 前年対比

A) 登録者数

	㋐ R4 年度登録者数	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	3,261	3,294	33	101.0
月平均	271	274	3	100.8

B) 利用者数

	㋐ R4 年度利用者数	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	3,261	3,256	-5	99.8
月平均	271	271	0	100.0

(4) 職員配置（3 月末日現在）

	常　勤		非常勤		合　計
	専任	兼務	専任	兼務	
管　理　者		1			1
計画作成担当者				2	2
介　護　職　員	6	1	1	2	１０
看　護　職　員			2		2
介　護　補　助			1		1
延　べ　人　員	6	2	4	4	１６
実　人　員	7		6		１３

(5) 運営推進会議

第　87　回　　令和　5　年　5　月　2　1　日
第　88　回　　令和　5　年　7　月　3　0　日
第　89　回　　令和　5　年　9　月　2　4　日
第　90　回　　令和　5　年　１１　月　2　6　日
第　91　回　　令和　6　年　1　月　2　8　日
第　92　回　　令和　6　年　3　月　3　1　日

（6）令和 5 年度自己点検評価

令和 5 年度は、入院者 2 名で合計 38 日間空室がありました。入院時は病院やご家族と連絡をとり出来るだけ早めに退院の対応できるよう心掛けました。職員は退職や体調不良等でのお休みが多く、勤務変更や他事業所からの応援を受けて事業を継続することができました。

11 月と 2 月に新任職員が入りましたが、指導力が不足していると感じることが多く職員全体で指導力を高めていくことが今後の課題です。

3. 居宅介護支援・介護予防支援【居宅介護支援事業所】

（1） 事業計画

① 特定事業所加算Ⅲの取得継続

A） ケアプランの質の向上

- 週 1 回のミーティングを実施し、ケース検討や社会資源の情報共有などを行い、事業所全体での質の向上を図ります。
- 他法人及び法人内の他事業所、多職種によるケース検討会を実施します。

B） ケアマネジメントの学びと後進の育成

- オンラインも含めた各種研修会への参加を積極的に実施します。
- 西部地域包括支援センター地区事業所等連絡会や、自立支援型地域ケア個別会議などへ参加継続します。
- 法人内で開催される研修会へ参加します。
- 小榊アスカ福祉会のフィロソフィーの理解を深め、ケアマネジメントの実践に生かしていきます。
- 法定研修等における実習生の受け入れを積極的に行います。
- 事業体制維持や拡大を目指し、新規採用者の獲得を目指します。

② 連携の強化

A） 事業所内の連携

- 担当が不在でも円滑な対応が出来るように、事業所内の情報共有を図ります。

B） 法人内の連携

- 法人内の他事業所、多職種との連携を強化します。

C） 西部地域包括支援センターとの連携

- 地域ケア推進のためにも、西部地域包括支援センターとの更なる連携強化を図ります。

D） 医療との連携

- 看取り期も含め、その人らしい暮らしを支えるためにも医療との連携を強化します。

③ 業務継続計画作成 BCP 作成の推進

- 感染症や災害が発生しても、必要なサービスが安定的・継続的に提供できるための BCP を実践可能なものとするために、法人内他事業所とも連携し研修や訓練を実施します。
- ICT を導入し、記録等の業務効率化と非常時のサービス継続を目指します。

④ 収入の確保

- 営業や広報活動を強化し、継続的に新規を受け入れて年 1,680 万円の収入を目指します。

(2)　事業報告

①　特定事業所加算Ⅲの取得継続

A)　ケアプランの質の向上

- 週１回の居宅ミーティング内でケース検討、業務改善等の検討を実施できました。
- 西部包括支援センター居宅連絡協議会や地域ケア会議等にて多職種も含めたケース検討会、他法人との事例検討会を通してケアマネジメントの質の向上に生かすことができました。

B)　ケアマネジメントの学びと後進の育成を図る

- 関連する内容の研修会へ参加し、事業所内での伝達講習も実施し情報共有に努めました。
- 西部地域包括支援センター地区事業所等連絡会、他法人との事例検討会、3 包括合同連絡協議会、自立支援型地域ケア個別会議への事例提供を実施し振り返りと学びの機会を確保できました。
- 毎月１回の法人内職場研修へ参加しました。
- 実習指導者２名登録体制は継続していますが、本年度の実務研修実習希望者はありませんでした。

②　連携の強化

A)　事業所内の連携

- 始業前及び週１回の居宅ミーティングを活用し情報共有と、担当不在時の対応もスムーズに実施できました。

B)　法人内の連携

- リーダー会議、コミュニケーション会議等も活用し、法人内他事業所との連携強化に努め緊急時においてもスムーズなサービス調整が実施できました。

C)　西部地域包括支援センターとの連携

- 対応困難な事例に関しての相談や連携を図り、西部地域包括支援センターからの相談も 20 件あり新規利用へとつながりました。

D)　医療との連携

- 入退院時に主治医や連携室との情報共有を実施し、加算の算定もできました。
- 連携室のある病院から 6 件、個人病院医師より 1 件の相談を受け、特に地域の中核病院である重工記念長崎病院の訪問診療、訪問看護との連携強化が図れました。

③　感染症や災害への対応力を強化について

- 事業所内での感染症発生はありませんでしたが、感染症が疑われたり職員家族での発生時にも在宅ワークを含めて事業継続の取り組みはできました。
- 自然災害等に対する BCP の策定に着手しましたが感染症も含めて訓練の実施は不十分でした。

④　収入の確保について

- 目標としていた年 1,680 万円にはわずかに届きませんでしたが、1,665 万円の収入を得ることができました。

(3)　請求目標・年間請求者数

①　請求目標対比

	㋐ 請求目標	㋑ R5 年度請求数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	1,428	1,402	－26	98.1%
月平均	119	117	－2	98.3%

※目標数：常勤ケアマネ 1 名につき 40 名

内訳：介護 35 名、予防 10 名（0.5 名換算）

②　前年対比

A)　請求者数

	㋐ R4 年度請求者数	㋑ R5 年度請求者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	1,422	1,402	－20	98.5%
月平均	118	117	－1	99.1%

※予防支援者は 0.5 名換算

(4)　職員配置（3 月末日現在）

	常　勤		非常勤		合　計
	専任	兼務	専任	兼務	
管　理　者		1			1
介護支援専門員	2	1			3
延　べ　人　員	2	2			4
実　人　員	3				3

(5)　令和 5 年度自己点検評価

年度初めから他サービスへの移行や施設入所、長期入院での終了者が継続し請求数を伸ばすことができず、年間の売上未達に影響をしました。7 月以降、要支援の方の相談も積極的に受け入れ介護請求 80 件以上を維持することができ、目標の売り上げ達成はできませんでしたが大きな落ち込みはありませんでした。令和 5 年度の傾向としては、認知症や精神疾患、またはその両方を併せ持ち緊急入院や精神科医や地域住民、警察を含む複雑なケースが増え、ケアマネージャーとしての対応にも精神的負担や苦労を強く感じました。また、団塊の世代の方の相談も増加し介護業界全体の課題を現実的なこととして受け止める年度でもありました。

令和 6 年度も、特定事業所加算Ⅲの算定を維持できるよう、職員の体調管理に努めつつ新規採用や法人内での資格取得の支援を行いたいと思います。また、事業収入の安定と益々複雑多様化するケースにしっかりと対応できるように、ケアマネジメントの質の向上を図り、地域で選ばれるケアマネージャーの育成に力を入れたいと思います。

4.　さくら【(介護予防）小規模多機能型居宅介護・(介護予防）短期利用】

(1)　事業計画

①　個別支援の充実

A)　ご利用者お一人お一人のニーズを捉え、職員間での情報の共有とご家族との連携を密に図り、ご自宅へと繋がる支援を心掛けていきます。

B)　基本的な挨拶の徹底を実践する。明るく大きな声掛けから一日をスタートさせ、その小さな積み重ねの中から大きな信頼関係が出来るよう努めます。

②　地域社会とのつながりや連携の構築

A)　毎月の介護予防教室への参加や各種行事を通じて、地域との関わりの機会の確保に努めます。

B)　定期的な運営推進会議の場を利用して事業所の活動の発信と、地域のニーズの吸い上げに努めます。

③　ICT の活用・実践への取り組み

A)　LIFE の活用を進め、科学的介護の実践に取組みます。

B)　PDCA サイクルを推進し介護サービスの質の向上を目指します。

④　働きやすい職場環境づくりと働き方改革・業務の見直しへの取組み

A)　介護業務以外の業務の効率化と進め方の検討を行い、介護業務の質を上げるとともに、何よりもご利用者へのより良い支援や関わりに重点を置いていきます。

B)　職員同士が互いに思いやり、感謝や尊敬の気持ちを持ちながら助け合い、高めあえるチーム作りを目指します。

⑤　居宅介護支援事業所、通所事業所との連携を密に行い平均稼働率を 95%以上、年の売り上げ 7,700 万円を目指します。

⑥　行事や有事の際の訓練などの実施や取組み

A)　BCP マニュアルを全ての職員が把握できること、有事の際に迅速な対応ができるよう日頃より訓練や研修の実施に努めます。

B)　地域との支援体制づくりが確立できるため連携の強化を目指します。

(2)　事業報告

①　ご利用者との日々の関わりの中から小さな変化に気づき、ご家族や医療と連携を取りながら早期に対応できたことで入院者を限りなく抑えられたと感じています。独居生活の方、老々介護の方等お一人お一人の生活環境などを捉えながら支援に努めた 1 年でした。

②　毎月の参加とはいかなかった予防教室でしたので、新年度は改めてしっかりと参加出来るように体制づくりに努めます。運営推進会議など地域の方との交流できる機会を更に充実した内容にできるよう取り組んでいきたいと考えます。

③　ICT の活用については出遅れています。スタッフの業務分担など見直しながら着手できるよう努めていくとともに、事業所のニーズなども洗い出しながら必要な ICT の活用の検討を行います。

④　幾つか業務の見直しが出来たものと、課題が残るものがありますが、新たな体制で更に見直しや改善できる点が見えてくると感じています。ケアに関しても同様に、お互いが声を掛け合える空気づくり、環境づくりに努めてきましたがまだまだ完全とは言えません。引き続きスタッフ同士が声をかけやすい環境づくりと信頼関係づくりを意識しケアの質の向上に努めます。

⑤　令和 5 年度は上期に介護度の高い方の終了なども続き稼働率も低迷しました。下半期になると宿泊ニーズの増や短期利用のニーズが上がり目標を達成できる月も出ました。しかしながら結果的に年間の稼働率は 92%に留まり年間売上は 7,160 万円と 7,700 万の目標に大きく達することができませんでした。目標達成の為に、先ずは登録 MAX 目指すこと、また引き続き短期利用の受け入れなど積極的に行っていきます。

⑥　年間を通し、災害に関連した訓練の実施に取り組むことが出来ました。が、合同での避難訓練など本格的な訓練では、都度口頭で動きの確認という流れになっていました。役割や動きのマニュアル整備が早急の課題です。地域との連携については特に独居のご利用者が住まう地区の民生委員さんへの訪問などを行いました。

(3)　利用定員・年間利用者数

①　利用定員対比

A)　登録者数

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	348	307	-41	88.2%
月平均	29	25.6	-3.4	88.2%

B)　通い利用者数

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	6,588	4,692	-1,896	71.2%
1 日平均	18	12.9	-5.1	71.7%

C)　宿泊利用者数

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	2,928	1,948	-980	66.5%
1 日平均	8.0	5.3	-2.7	66.3%

②　前年対比

A)　登録者数

	㋐ R4 年度登録者数	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	312	307	-5	98.4%
月平均	26.0	25.6	0.4	98.5%

B） 通い利用者数

	㋐ R4 年度利用者数	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	3,696	4,692	996	127%
月平均	308	391	83	127%

C） 宿泊利用者数

	㋐ R4 年度利用者数	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	1,429	1,948	519	136%
月平均	119	162	43	136%

D） 訪問利用者数

	㋐ R4 年度利用者数	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	3,219	3,331	112	112%
月平均	268,2	277.6	9.4	104%

（4） 職員配置（3 月末日現在）

	常　勤		非常勤		合　計
	専任	兼務	専任	兼務	
管　理　者		1			1
計画作成担当者	1				1
介　護　職　員	7	1	6	0	14
看　護　職　員	1		1		2
介　護　補　助			1	0	1
延　べ　人　員	9	2	8	0	19
実　人　員	10		8		18

（5） 運営推進会議

グループホームひばりに同じ

（6） 令和 5 年度自己点検評価

上半期は介護度の高い方の終了も続き稼働率も低下しましたが、下半期になり宿泊のニーズや、短期利用のニーズが高まり稼働率も伸びました。が、計画予算の数字には－600 万と大きく届かない結果となりました。しかし、この 1 年はご利用者の身体機能の向上など、スタッフ間でお一人お一人に合わせたケアに取り組んだ結果が目に見える成果として感じる事ができた、やりがいを感じることができた 1 年でもありました。今後も更に認知症ケアの向上や個別ケアの充実を図り、生活の継続性を維持し、可能な限り在宅で暮らすことができることを目指したケアに努めたいと思います。また成功事例を元に小規模多機能の周知と営業活動に努め新規登録者の獲得を目指します。

5. さくらⅡ【小規模多機能型居宅介護】

（1）事業計画

① 根拠に基づいた認知症ケア・自立支援・家族支援の実践

A） 認知症研修会を事業所内外で開催し、知識を深めてケアの質を高めます。

B） アスカ会の理念を日々のケアで体現するために「人として何が正しいのか」の指針となるフィロソフィーを職員で共有します。

② 各種計画・訓練の実施や研修への参加

A） 業務継続に向けた BCP を作成し、実施します。

自然災害対策として、地域特有の被害（台風による長時間の停電など）を想定した計画書やハザードマップを作成します。事業を縮小しながらも継続し、出来るだけ早く復旧させる取り組みを行います。

感染症対策として月に 1 度、事業所での訓練を実施し、感染拡大を予防します。

B） 各職員のスキルアップ・キャリアアップのために認知症介護に関する各種研修の受講や介護福祉士・社会福祉士・認知症ケア専門士等の資格取得に取り組みます。

③ 稼働率アップと収入の確保

A） ご利用者数を 27～29 名で安定させます。日々の状態観察で長期入院を減らすことにより、稼働率を平均 97%、月平均 674 万円、年間売り上げ 8,088 万円を目指します。

(2) 事業報告

① 根拠に基づいた認知症ケア・自立支援・家族支援の実践について

認知症ケア：実践者研修を受講した職員が技法を持ち帰り、施設内実習としてチームでケアに取り組みました。

場当たり的な対応ではなく症状が出る前に得意分野の作業を提供してから生活の質を上げる接遇は事例として発表出来ました。

反面、職員都合でお客様の自発的な行動を封じ込めるような言葉は見受けられました。

自立支援：職員によるケアのバラつきがありました。ケアプランの準備不足により、手を出しすぎる過剰な支援も目立ちました。

家族支援：ご家族への心理的なフォローが、ケアラー支援や柔軟な退院支援に結び付いた成果だと思います。

② 各種計画・訓練の実施や研修への参加について

各種計画：自然災害に対するＢＣＰ（事業継続計画）は、更新や確認が不十分でありました。

新型コロナウイルスに関しては想定訓練を基に適切な業務縮小が出来たと思います。

研修：法人内研修に比べると、外部研修への参加希望には消極的でした。

③ 稼働率アップと収入の確保について

予算 8,088 万円のところ、7,750 万円に低迷しました。原因としては、R5.4 月以降の再スタートを切るための準備として、R4. 2 月～ 3 月頃からの営業開始を怠っていた点です。

(3) 利用定員・年間利用者数

① 利用定員対比

A) 登録者数

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	348	290	-58	83%
月平均	29	24	-5	82%

B) 通い利用者数

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	6,570	4,574	-1,996	69%
月平均	548	381	-167	69%

C) 宿泊利用者数

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	3,285	2,737	-548	83%
月平均	273	228	-45	83%

② 前年対比

A） 登録者数

	㋐ R4 年度登録者数	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	300	290	-10	96%
月平均	25	24	-1	96%

B） 通い利用者数

	㋐ R4 年度登録者数	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	4,651	4,574	-77	98%
月平均	387	381	-6	98%

C） 宿泊利用者数

	㋐ R4 年度登録者数	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	2,687	2,737	50	101%
月平均	223	228	5	102%

D） 訪問利用者数

	㋐ R4 年度登録者数	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	3830	3813	-17	99%
月平均	319	317	-2	99%

（4）職員配置（3 月末日現在）

	常　勤		非常勤		合　計
	専任	兼務	専任	兼務	
管　理　者		1			1
計画作成担当者		1			1
介　護　職　員	7		8		15
看　護　職　員	1				1
介　護　補　助			1		1
延　べ　人　員	8	2	9		19
実　人　員	9		9		18

（5）運営推進会議

グループホームに同じ

（6）令和 5 年度自己点検評価

年間収入は前年度より約マイナス 17 万円。予算に対しては約 340 万円の未達となりました。

新規利用者獲得の過程で訪問介護ニーズ中心のご利用者獲得に向けた営業・広報活動により、2 件獲得の成果がありました。

ケアの内容については認知症ケア・家族支援の視点から、地域で安心して暮らして頂けるケアを提供出来て、取り組み事例を年度末に発表しました。令和 6 年度もフィロソフィーの浸透により、ハラスメントや苦情を減らして行きたいと考えています。

新型コロナウイルス陽性者発生時の対応については、日頃の体調確認や想定訓練の成果により、最小限の業務縮小を経て、営業再開する事が出来ました。

6. デイサービスセンターアスカⅡ【認知症対応型通所介護】

（1） 事業計画

① ご利用者の自立支援及び個別ニーズを捉えた介護の実践に努めます

② 認知症に対する更なる理解を深め認知症介護に携わる者としてのスキルの向上に努めます

③ ご家族とのコミュニケーションの機会や更なる信頼関係の構築に努めます。

④ 業務継続に向けたＢＣＰの作成や実践と地域との連携

⑤ 経営の安定向上に向けた取り組みに努めます

⑥ 介護人材確保の為、職場環境の改善など働きやすい介護現場を目指し取り組む

（2） 事業報告

① お一人お一人の身体状況や認知症の進行状況をスタッフ間で密に共有しながら、ご自宅での生活も考慮し、残存機能維持を心がけることを意識しました。

② 個人個人の認知症状を把握しながら、様々なアプローチを試し、より良い支援を模索し対応することを心がけました。ご家族のお気持ちもツールを活用しながら共有し、基本的な認知症に対する理解を今後も深めていきます。

③ 送迎時のご家族様とのコミュニケーションを大切に考え、家庭での様々な事案に関しても柔軟な受け入れ姿勢をお伝えしました

④ 業務マニュアルを一から見直し再度整備を行いました。感染症、災害などについても危機感をもって準備にあたりました。

⑤ HP の更新や,営業チラシ作成も行いながら、自居宅だけではなく、他法人の居宅にもアピールできる体制作りに努めました。

⑥ 現場スタッフの様子などを気にとめながら、全員が気持ちよく仕事に取り組めるよう、職場の環境つくりを意識しました。

⑦ 年間稼働率　51%　年間総売上　17,560,093 円

(3)　利用定員・年間利用者数

①　利用定員対比

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	3,110	1572	-1538	50.5
月平均	259	131	-128	50.5

②　前年対比

A)　登録者数

	㋐ R4 年度登録者数	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	148	115	-33	77.7
月平均	12.3	9.6	-2.7	78

B)　利用者数

	㋐ R4 年度利用者数	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	1,714	1,572	-142	91.7
月平均	142.8	131.0	-11.8	91.7

(4)　職員配置（3 月末日現在）

	常　勤		非常勤		合　計
	専任	兼務	専任	兼務	
管　理　者		1			1
生活相談員		1		2	3
介護職員	1	0	1	2	4
機能訓練指導員				1	1
看護職員				1	1
延べ人員	1	2	1	6	9
実　人　員	2		3		5

(5) 運営推進会議

第　13　回　　令和　5　年　1　0　月

第　14　回　　令和　6　年　　4　月

（6）令和５年度自己点検評価

新型コロナ感染症も 5 類に移行し、少しずつ通常の体制にシフトしてきましたが、消毒、換気など、予防は継続して行っています。売り上げは、前年と比べると、登録、延べ人数ともに、減収いたしましたが、認知症デイサービスが担うべきサービスの特異性を見失わないように、お客様一人一人の個性に合わせて、安心して過ごせる時間、空間作りにおいては、例年と変わらず、しっかり質をキープ出来ていると評価しいています。現状、様々な介護サービスにおいて、認知症の方の対応を普通に受け入れ始めている現状はありますが、専門性、個別性をしっかり自覚しながら、営業に向けてのアピールポイントを見つけ、発信していきたいと考えています。

7.　デイサービスセンターアスカ立神【地域密着型通所介護】

（1）事業計画

①　西泊、立神、飽の浦地域の要支援・要介護高齢者の生活を支えます。

②　ご家族やケアマネージャーとの連携を強化します。

③　感染症や災害への対応力を強化します。

④　稼働率を高め、収益確保に努めます。

（2）事業報告

①　西泊、立神、飽の浦地域の要支援・要介護高齢者の生活を支えます。

地域密着型通所介護として地域の方たちとのつながりや自治会の皆様との協力は欠かせないものだと考えおり、令和５年度も自治会の方から「餅つき大会」「グラウンドゴルフ大会」などにお誘いいただいて参加させていただきました。

また運営推進会議を定期的に開催してご意見やアドバイスを活かし、事業所の件だけでなく地域の課題などを皆様と情報共有していきたいと思います。今後も関係作りを続けていき、地域のデイサービスとして必要とされるようになっていきたいと考えています。

②　ご家族やケアマネージャーとの連携を強化します。

お客様の小さな変化などに気づき、迅速に対応していくことで安心してご利用していただけるように努めており、信頼関係の構築を目指して密な連絡と情報共有を行いました。

③　感染症や災害への対応力を強化します。

コロナウイルスも５類に移行されましたが、感染症への意識を緩めず、油断しないように感染対策は続けており、手洗い、消毒、検温、換気などを適切に行い、事業所内での感染防止に努めました。

災害に関しては火災、水害、土砂崩れなど様々な災害を想定して、年に２回の避難訓練を行いました。今後もＢＣＰ（事業継続計画）に則り、感染症や災害が発生した場合は迅速な対応ができるように訓練を続けていきます。

④　稼働率を高め、収益確保に努めます。

令和５年度は年間稼働率６６%、年間売り上げ 19,191 千円の結果となり、売り上げ目標 2,200 万円を達成することができませんでした。

入院者が立て続けにあったことや、その後、新規のお客様を得られなかったことが大きく影響したと考えております。

(3) 利用定員・年間利用者数

①　利用定員対比

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	3,110	2,071	-1,039	66.5
月平均	259.1	172.5	-86.6	66.5

②　前年対比

A）登録者数

	㋐ R４年度登録者数	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	195	174	-21	89.2
月平均	16.2	14.5	-1.7	89.5

B）利用者数

	㋐ R４年度利用者数	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	2,298	2,071	-227	90.1
月平均	191.5	172.5	-19	90.0

(4) 職員配置（3 月末日現在）

	常　勤		非常勤		合　計
	専任	兼務	専任	兼務	
管　理　者		1			1
生活相談員		3			3
介護職員		2	2	1	5
機能訓練指導員				1	1
看護職員				1	1
厨房職員			1	1	2
延べ人員		6	3	4	13
実　人　員	3		5		8

（5）運営推進会議

第　1 回　　令和 5 年　　9 月 1 9 日
第　2 回　　令和 6 年　　3 月 1 8 日

（6）令和 5 年度自己点検評価

デイサービスセンターアスカ立神として活動を始めて 2 年が経ちました。
上半期に関しては順調なスタートでしたが、8 月頃よりお客様の入院などが続き稼働率が低下し、下半期にも新規のお客様を確保できず売り上げは目標に届きませんでした。
今後は、新規のお客様を増やしていくことが最大の目標であり、先ずは広報活動に力を入れるために立神通信（パンフレット）を作成し、地域の方や西部地域包括支援センターや法人外のケアマネージャーへ配布をしています。
また事業所を PR していく上で魅力や特色を感じるデイサービスにしていくためにも、今年度は以前できていなかった外出などの行事にも力を入れて、現在ご利用していただいているお客様にも楽しんでもらえる内容を提供していきたいと考えております。

8.　地域密着型特別養護老人ホームアスカ【地域密着型介護老人福祉施設】

（1）　事業計画

①　さらなる介護サービスの質の向上

タブレット端末や睡眠モニターシステムなど複数の ICT を活用することで、ご入居者に対し科学的な根拠にもとづいた介護のアプローチを図り、合わせて職員の業務負担軽減に努めます。
眠りスキャンを活用した良質な睡眠確保に努め日中の活動を増やす事で ADL の向上を目指します。現在使用している、ご入居者の福祉用具等の見直しを行い、快適な日々を過ごして頂けるように努めます。又職員も介護を行いやすくなる事で、業務負担軽減を行い職場環境の改善をしていきます。

②　空室による売り上げ減の対策

入院や入退所入れ替わりによる空室を、ショートステイアスカや居宅と連携して空室日数を前年より減らします。退去の可能性が高い、ご入居者がいる際には入居者判定会議を実施し、事前に数名候補を選出しておき、稼働率 93%と収入 1 億円を目標とします。

③　ご入居者とご家族の繋がりを保つ

前年より新型コロナウイルスにて、ご入居者とご家族の面会が規制されています。Zoom 等のオンライン面会を推奨継続し、繋がりを保てるよう努めます。

④　職員の育成と離職防止

A）　認知症への理解をさらに高めて、ケアの質の向上を目指します。
B）　やりがいのある仕事となるように職員の意見を積極的に取り入れる努力をし、働きやすい職場にできるような環境整備にとりかかります。
C）　報告、連絡、相談といった業務の基本を徹底して実施します。

(2)　事業報告

①　ICT による生産向上推進を目指して

昨年 10 月から介護記録をほのぼの NEXT、CarePalette で行うことを目指し、令和 6 年 1 月から実施しています。導入前には 1 時間程度かけていた記録の時間が 30 分以下にまで短縮することが出来ました。その他にも眠りスキャンの活用などで夜間の見守りなども外面上で確認することができます。必要最低限の巡回で対応でき、スタッフの負担軽減・お客様の睡眠をしっかり確保することが出来ています。

今後も、生産性向上・業務負担の軽減など行いながらお客様へのケアについてもさらに良質なものに繋げていけるようにしたい。

②　空室による売り上げ減の対策

空室対策は相談窓口担当職員を中心に実施していました。

令和 5 年度年間通して空室は 175 日(内入院は 72 日)であった。これまでで一番空室数が少なくすることができた。

また、職員の頑張りもあって、稼働率 98%と収入 1 億円超えを達成しました。

③　ご入居者とご家族の繋がりを保つ

御家族にご理解いただいたうえで、約 15 分程度の居室での面会をしていただけています。

居室で面会できることに多くのご家族様がお喜びになっていますが、感染などのリスク回避として 15 分という短時間の面会に不満を持たれているご家族もおられます。

各種感染症の動向に注意しながら、御家族での面会という貴重なお時間を考えて延長などを検討必要だと感じます。

④　職員の育成と離職防止

法人主催の研修参加や事例発表会以外は職員が自主的に企画した研修案件がほぼ実施できませんでした。自発的な技術向上の意欲を評価するまでは至りませんでした。

離職者や腰痛等の故障者は少なく、突発的に休みが必要な場合でも、残りの職員でカバーすることで職員稼働は安定していました

(3)　利用定員・年間利用者数

①　利用定員対比

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	7,300	7,144	-156	98%
月平均	608	595	-13	98%

② 前年対比

A） 登録者数

	㋐ R4 年度登録者数	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	240	237	-3	98%
月平均	20	19	-1	95%

B） 利用者数

	㋐ R4 年度利用者数	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	6,951	7,144	193	103%
月平均	579	595	16	103%

(4) 職員配置（3 月末日現在）

	常　勤		非常勤		合　計
	専任	兼務	専任	兼務	
施　設　長		1			1
管　理　者		1			1
生活相談員		1			1
介護支援専門員		2			2
介　護　職　員	12		4		16
医師（嘱託）			1		1
看　護　職　員		1		1	2
機能訓練指導員		1		1	2
管理栄養士	1				1
調　理　員			5		5
宿　直　職　員			1		1
介　護　補　助					
延　べ　人　員	13	7	11	2	33
実　人　員	17		12		29

(5) 運営推進会議

グループホームに同じ

（6） 令和５年度自己点検評価

令和５年度は各ユニットで点滴等、医療的ニーズの高い方が増え、医師・ご家族・看護職・介護職・その他の職種を含めて、看取りケアに取り組んだ緊張感の高い一年でした。

前年度に引き続き１億円超の収入を達成できたのは、職員の地道な介護、看護とその連携の成果に他なりません。

平均介護度 4.4。要介護５の入居者が 20 名中 11 名と半数以上を占めています。医療ニーズの必要な方などが増えています。今後、入居者の入れ替わりが増えることが予想されます。

CarePalette や眠りスキャンの活用など業務の効率化や生産性の向上につり組み始めることができたと感じる１年でした。

ノーリフトへの取り組みに関しては機器を活用出来たとは言えず、次年度に課題が残りました。

9. ショートステイアスカ（特養併設型）【短期入所生活介護】

（1） 事業計画

地域社会の中で支援を必要とする高齢者が安心して生活できることや尊厳を重んじて自立や自己決定のもとで生活が送れるように短期入所生活介護サービスの提供を行います。

短期入所生活介護計画に具体的な援助内容を表記し利用者、ご家族に確認していただきます。

（2） 事業報告

① 金銭管理や郵送物等、書類の管理が不十分で関係の方々に迷惑をおかけしました。また、職員間のハラスメント問題や不適切なケアは、改善していく取り組みを開始しています。

② 前年度に比べてご利用者数は減少しましたが、緊急利用の要望に可能な限り対応し、地域の高齢者の支えになりました。

③ FAX などの営業活動は多くは行っていませんでした。令和６年度の課題です。

④ 短期入所計画を作成し、ご利用者・ご家族へ説明を行いましたが、事業所での浸透に不足している部分がありました。

⑤ 令和５年８月と令和６年１月にコロナ陽性者が発生、ご利用者やご家族等、各種関係者方にご迷惑をお掛けしまいました。その後の感染予防対策は、さらに強化して取り組んでいきました。

(3)　利用定員・年間利用者数

①　利用定員対比

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	3,285	2,776	-509	84%
月平均	273	231	-42	84%

②　前年対比

A)　登録者数

	㋐ R4 年度登録者数	㋑ R5 年度登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	323	297	-26	91%
月平均	27	24	-3	89%

B)　利用者数

	㋐ R4 年度利用者数	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	2,864	2,776	-88	96%
月平均	238	231	-7	97%

(4)　職員置（3 月末日現在）

①　ショートステイアスカ

	常　勤		非常勤		合　計
	専任	兼務	専任	兼務	
管　理　者		1			1
生活相談員		1			1
介護職員	6				6
医師（嘱託）			1		1
看護職員				1	1
機能訓練指導員				1	1
栄　養　士	1				1
調　理　員					
介護補助			1	1	2
延べ人員	7	2	2	3	14
実　人　員	8		3		12

②　特別養護老人ホームアスカ空室ショート

特別養護老人ホームアスカ職員配置に同じ

(5)　令和５年度自己点検評価

本年度は、上記での報告のようにコロナ陽性者２度にわたり、発生し、業務縮小を数日おこない大変なご迷惑をおかけしました。改めて感染予防に取り組み、令和６年度に挑みます。また、日常の業務、請求に関しても怠惰や確認ミスが多く、ご利用者及びご家族に大変なご迷惑をお掛けしてしまいました。

１年間を反省し、令和６年度は改善できるようリーダー、サブリーダー始め、スタッフ一丸となってサービスに取り組み、安心してお泊まりいただけるよう、多くの方にまた、ご利用頂けるように魅力あるショートステイ作りを目指します。さらに、ケアの質の向上に取り組みながら、ご利用者・ご家族・ケアマネージャーに信頼されるショートステイを目指したいと思います。

10. ミニデイサービス【介護予防・日常生活支援総合事業通所型サービスＡ】

(1)　事業計画

①　地域包括支援センターや小榊小学校区住民への広報活動を行い集客に努めます。

②　週２日の稼働から平日週３日の稼働を行います。

③　登録者数２０人の獲得を目指します。

(2)　事業報告

①　短期集中通所型サービス事業の利用から移行されるケースが増え着実に登録者が増えています。

②　水曜日、金曜日に加えて月曜日の稼働を増やす準備をしていましたが職員の確保が難しくなったため現状維持となりました。

③　登録者は１２人にとどまっていますが週２回利用される方や短時間デイでミニデイを利用される方がいるためほぼ定員に近い状態での運営となっています。

(3) 令和５年度自己点検評価

お客様は着実に増えていますが送迎範囲が広がっていることで常にあわただしく運営を行っます。利益率は非常に高く社会的なニーズも高いため引き続き地域住民の介護予防を目的に事業の安定的な運営を進めていきます。

11. 配食サービス

(1)　事業計画

①　ひとり暮らし等の調理や買い物が困難な高齢者、障害者に食事を配達し、食事の確保と安否確認を行います。

②　目標食数　800 食/月

③　目標対象者数　55 名/月

(2)　事業報告

①　地域の高齢者の安心安全な生活に貢献できました。

②　目標食数　800 食/月　→　実績　931.25 食/月

③　目標対象者数　55 名/月　→　実績　59.5 名/月

(3)　前年対比

A)　合計数

	㋐ R4 年度	㋑ R5 年度	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	10,343	11,175	832	108.0
月平均	861.9	931.3	69.4	108.1

B)　売り上げ

	㋐ R4 年度	㋑ R5 年度	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間	496 万	532 万	36 万円	107.3
月平均	41.3 万円	44.4 万円	3.1 万円	107.5

(4)　職員配置（3 月末日現在）

	常　勤		非常勤		合　計
	専任	兼務	専任	兼務	
調　理　員	2	0	4	0	6
配　達　員	0	0	0	2	2
延　べ　人　員	2	0	4	2	8

(5)　令和 5 年度自己点検評価

年々配食のニーズが高まっておりハード、ソフトともにキャパシティが限界に近づいています。味付けに関しても高い評価を得ており今後も高齢者が増えることから現状を維持する必要があります。

12. 介護職員初任者研修

(1)　事業計画

長崎県長寿社会課に申請後認可を得て、年 2 回の研修を実施します。

福祉事業として介護技術の習得や普及に寄与する一方、修了と同時に本会に就職した実績もあり、既に本会で勤務にあたっている職員の資格取得の場にもなっています。

(2)　事業報告

年度初め、計画に沿って年 2 回の開催申請を済ませたが、新型コロナ感染症の拡大を受けて、前期・後期は感染予防の観点から中止となりました。

(3)　利用定員・年間利用者数

①　利用定員対比

	㋐ 利用定員	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	14	0	-14	0%

②　前年対比

	㋐ R4 年度	㋑ R5 年度利用者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
年間延	3	0	-3	0%

(4)　令和 5 年度自己点検評価

受講定員を 10 名から 7 名に定員を見直し、年度初めの申請時は、前期・後期を開催し合計定員 14 名を計画していましたが、感染症拡大防止の観点から、前期・後期の開催は中止しました。

令和 6 年度に於いては、感染状況も踏まえながら開校を目指し前期のみ、開催申請を済ませております。

アスカ会の職員に加えて、ホームページなどでも一般の受講生を募集していきます。

13. 小榊児童クラブ【放課後児童健全育成事業】

(1)　事業計画

①　放課後健全育成事業の適正な基準を理解し、健全な運営を行います。

②　職員間のコミュニケーションを密にし、学童運営の円滑化を行います。

③　学童内の各種マニュアルや業務手順書等を整備し、基盤を構築します。

④　特別な支援を必要とする児童の特性を理解し、それぞれの児童に合った支援を行います。

(2)　事業報告

①　1 クラス増加の 5 クラスでの運営をしました。
各クラスに担任を配置し、個性を尊重しつつ児童の支援ができました。また、季節休暇中（夏休み、冬休みなど）にはクラス単位で行事、クラス活動ができました。

②　新型コロナウイルス感染症が流行している中、本学童職員・児童からも陽性者が確認されました。閉所し感染を抑える判断が求められ、児童・保護者へ負担をかける結果となり、消毒などはもちろん、児童との関わり方を工夫して感染対策を講じる事が求められました。

③　支援員認定資格研修や定期的研修へ参加し、指導員としての知識を高める事ができました。

④　職員の体制が整い、保育支援の人員配置が整備されました。しかし、職員間のコミュニケーションの不足が目立ち、連携・情報共有の再検討が必要となりました。

(3)　利用定員・利用者数

①　登録者数

	令和５年４月	令和６年３月
１年生	53	53
２年生	54	49
３年生	40	32
４年生	31	23
５年生	10	7
６年生	5	2
合計	193	166

②　定員対比

	㋐ 利用定員	㋑ 登録者数	㋑－㋐ 差	㋑／㋐×100% 対比
R4 年４月	200	193	7	97
R5 年３月	200	166	34	83

※１クラス４０名定員　５クラス編成時 200 名を定員とする

(4)　令和５年度自己点検評価

①　担任制と役割分担への取り組みに効果がありました。

②　感染症対策の困難さを痛感しました。予防対策を徹底していきます。

③　職員間の連携・情報共有が不十分であり、連携手段を検討します。

III. 地域交流事業

1. 小榊小学校区見守りネットワーク

5 月、7 月、9 月、１１月、3 月の隔月実施。５月に小榊地区、１月に小瀬戸サロンを対象に徘徊高齢者への声掛け訓練を実施しました。

2. 介護予防教室（毎月１回、木鉢ふれあいセンター）

年間を通して休止することなく地域住民の健康作りに寄与できました。木鉢、小瀬戸、西泊、みなと坂から毎回 10 人以上の参加があり、延べ 156 名がストレッチ、筋トレ、レクリエーションに取り組まれました。

3. 法人創設 20 周年記念事業

７月２日に木鉢ふれあいセンターにて、特養よりあいの森の村瀬孝生所長による「認知症の方へのケア」の講演とすがさきクリニックの菅崎弘之院長とのお二人による「認知症と地域社会との共生」をテーマにした公開対談会を実施しました。また、新型コロナウイルス感染対策のためにアスカ会本館においても ZOOM を活用して同時中継を行いました。今年度は地域の方々59 名、職員 48 名で合わせて 107 名の参加となりました。

4.　秋祭り　コロナのため中止

5.　地域行事への参加

（1）　みなと坂秋祭りにて福祉相談ブースを設置し、リフトや車いす等の機器の展示を行いました。

（2）　立神町餅つき大会に参加。

6.　あいさつ運動（子供１１０番―こども安全見守りを兼ねる）

7.　施設周辺の清掃活動（毎月１回みなと坂団地入口南ゲート付近の歩道清掃）

IV. 研修・視察・ボランティア受入れ

1.　研修

受入れ無し

2.　視察

受入れ無し

3.　ボランティアの受入れ

受入れ無し

V.　職員の採用及び研修

1.　採　用

（1）長崎純心大学、長崎医療こども専門学校、こころ医療福祉専門学校への求人、介護労働安定センター等での会社説明会

（2）ハローワークへの求人

（3）県福祉人材センターへの求人

（4）新聞折込

（5）本会介護職員初任者研修

（6）ホームページによる求人

（7）職員の紹介

（8）アスカ通信（毎月）による求人

（9）敷地内フェンスへの求人募集看板の設置

（10）特定技能実習生３名採用

2.　研　修

（1）　法人内研修（全体ＯＦＦ-Ｊ Ｔ、新入職員研修、中堅職員研修、リーダー研修）

（2）　長崎市グループホーム連絡協議会、小規模多機能居宅介護事業所連絡会、長崎県・長崎市老人福祉施設協議会、その他の団体主催の研修会（オンライン研修も含む）

VI. 役員会・委員会・法人内活動等

1. 役員会等

（1） 理事会（4 回）

（2） 評議員会（2 回）

（3） 監査

（4） 評議員選任・解任委員会（開催なし）

（5） 運営推進会議（特養アスカ、さくら、さくらⅡ、ひばりは合同開催及びデイアスカⅡ、デイ立神）

（6） 苦情解決第三者委員会

2. 経営検討会議（月 2 回）

3. リーダー会議（月 1 回）

4. 委員会

（1） 地域包括推進室

（2） 福利厚生委員会

（3） 安全対策委員会

（4） 研修委員会

（5） 衛生委員会

（6） ICT 委員会

（7） BCP 委員会（月 2～3 回及び臨時）

① 各事業所に対応した新型コロナウイルス発生時における業務継続計画（BCP）に基づく対応

② 新型コロナウイルス感染拡大防止のためのマニュアル・通知文作成

③ 新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応検討（7 月・8 月・9 月・12 月・1 月・2 月）

④ 研修の実施（リーダー会議、全体会議で毎月報告）

⑤ 発生時対応シミュレーション

5. 自衛消防隊

6. メンタルヘルス相談室

7. フィロソフィの学習（リーダー会議、職員研修会、朝礼等）